

科目名	保育原理		
科目担当者	山内 博子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 前期		
授業の目的・ねらい	・子どもの育ちはその社会環境に大きく影響をされる。保育の現状を課題は何か、それに対してどのような保育が求められるかを学ぶ。保育の思想・歴史・法令・制度について理解を深める。保育所の役割・責任と保育所保育の基本（保育所保育指針に示される内容）について理解する。		
到達目標	1.保育の意義と目的について理解する。（宝飯的根拠・制度的位置づけを理解する） 2.保育に関する法令及び制度を理解する。 3.保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4.保育の思想・歴史的変換について理解する。 5.保育の現状と課題について理解する。		
授業計画	第 1 回	オリエンテーション・保育についてこれから学ぶこと	
	第 2 回	こども家庭福祉と保育・保育の社会的役割と責任	
	第 3 回	保育に関する法令・制度（子ども・子育て支援制度）	
	第 4 回	保育の目標及び内容（保育所保育指針）	
	第 5 回	保育に関する基本原則-環境を通して行う保育-	
	第 6 回	保育に関する基本原則-遊びを通しての学び-	
	第 7 回	子どもの理解に基づく保育	
	第 8 回	保育の計画と評価	
	第 9 回	保護者支援（地域子育て支援）	
	第 1 0 回	地域社会で行う子育ての支援	
	第 1 1 回	特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ	
	第 1 2 回	保育所職員の資質・専門性の向上	
	第 1 3 回	日本における保育の思想・歴史的変換・制度	
	第 1 4 回	保育の現状と課題について	
	第 1 5 回	まとめ	
使用図書	授業内にて随時提示する。		
評価方法	授業態度（30％）定期試験（70％）		
フィードバック	各回に記入したリアクションペーパーをもとに次の授業の中でフィードバックする。		
受講者へのメッセージ	各授業において予習や準備すべき内容を提示します。忘れ物のないよう、準備すること。 毎回の授業内容を振り返るためのプリントを用意します。授業が終わったら復習をするようにして下さい。		

授業概要(シラバス)

科目名	こども家庭福祉		
科目担当者	中 村 聡	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 2 単位 3 0 時間		
配当学年・時期	・ 1 年次 後期		
授業の目的・ねらい	現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体系について学びを深めていく。また、こども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。		
到達目標	現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷について学び、子どもの人権養護について理解する。また、こども家庭福祉の制度・実施体系、現状と課題、同行と展望について学習する。		
授業計画	第 1 回	現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷	
	第 2 回	少子高齢化、家族形態の変化、相対的貧困、食文化	
	第 3 回	子どもの権利について(子ども観、人権擁護の歴史の変遷、児童の権利についてに関する条約)	
	第 4 回	子どもの権利擁護と現代社会における課題	
	第 5 回	児童家庭福祉の制度と法体系及び実施体系	
	第 6 回	児童家庭福祉と子ども家庭福祉の専門職・実施者	
	第 7 回	少子化と地域子育て支援	
	第 8 回	入所児童へのかかわり・対応と配慮	
	第 9 回	多様な保育ニーズへの対応	
	第 1 0 回	子どもの虐待・DVとその対応	
	第 1 1 回	社会的養護、児童相談所について	
	第 1 2 回		
	第 1 3 回	少年非行等への対応	
	第 1 4 回	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	
	第 15 回	子ども家庭福祉の動向と展望	
使用図書	「こども家庭福祉」(配本テキスト)「子ども家庭福祉」(萌文書林)、全国児童養護施設協議会発行機関紙等のデーター		
評価方法	定期試験結果により判定・評価を行う。		
フィードバック	授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。		
受講者へのメッセージ	児童養護施設に勤務し講義内容も理論と実践の乖離が起きないように留意し、実経験に基づく援助技術や養育(保育)実践を用いて、保育現場での必要な手法を伝えるので積極的に自分の考えや意見を持って参加しましょう。		

科目名	社会福祉論		
科目担当者	中村教子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 後期		
授業の目的・ねらい	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。		
到達目標	・現代社会における社会福祉の意義,歴史的変遷,社会福祉の中で子どもの人権,家庭支援を理解する。 ・社会福祉の法律,制度,実施体系について利用者支援の在り方,相談援助の方法,技術について理解する。 ・保育士として社会福祉の領域に関する基本的な知識・技術・価値観について習得する。		
授業計画	第 1 回	社会福祉の理念と概念について学ぶ。	
	第 2 回	社会福祉の歴史的変遷について学ぶ。	
	第 3 回	子ども家庭支援と社会福祉について理解する。	
	第 4 回	社会福祉の制度と法体系および関連制度について学ぶ。	
	第 5 回	社会福祉行財政と実施機関について理解する。	
	第 6 回	社会福祉施設について理解し説明できる	
	第 7 回	社会福祉の専門職について理解し説明できる。	
	第 8 回	相談援助の理論について学ぶ。	
	第 9 回	相談援助の意義と機能について学ぶ。	
	第 1 0 回	相談援助の対象と過程について理解し説明できる。	
	第 1 1 回	様々な相談援助の方法と技術について理解を深める。	
	第 1 2 回	情報提供と第三者評価について学ぶ。	
	第 1 3 回	利用者の権利擁護と苦情解決について学び説明できる。	
	第 1 4 回	子どもの権利擁護について再確認し説明できる。	
	第 1 5 回	社会福祉の動向と課題を把握する。	
使用図書	「社会福祉論」 （配本テキスト）		
評価方法	定期試験60% 授業の参加姿勢20% 振り返りシート20%		
フィードバック	講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述について行う。		
受講者へのメッセージ	保育士として社会福祉の領域に関する基本的な知識・技術・価値観について理解を深めます。厚生労働省ホームページ、白書等々も活用します。		

授業概要(シラバス)

科目名	社会的養護Ⅰ		
科目担当者	中 村 聡	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 2 単位　 3 0 時間		
配当学年・時期	・ 1 年次　 前期		
授業の目的・ねらい	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体系について学びを深めていく。また、子どもを取り巻く社会の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。		
到達目標	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、説明することができる。 社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解し、説明することができる。		
授業計画	第 1 回	オリエンテーション・子どもや家庭をとりまく状況	
	第 2 回	社会的養護の基礎概念と歴史の変遷	
	第 3 回	子どもの人権と社会的養護の関係性	
	第 4 回	社会的養護の基本原則	
	第 5 回	社会的養護における専門職と保育士の倫理・責務とその資質	
	第 6 回	社会的養護の法・制度・施策	
	第 7 回	社会的養護の実施体制	
	第 8 回	社会的養護とファミリーソーシャルワークの視点	
	第 9 回	社会的養護の対象と支援体制	
	第 1 0 回	家庭養護と施設養護	
	第 1 1 回	社会的養護における社会的状況	
	第 1 2 回	施設等の運営管理の現状と課題	
	第 1 3 回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	
	第 1 4 回	社会的養護と地域福祉の現状と課題社会的養護と地域福祉の現状と課題	
	第 15 回	まとめ	
使用図書	「社会的養護Ⅰ」（配本テキスト）「新・基本保育シリーズ 6 社会的養護Ⅰ」（中央法規）、全国児童養護施設協議会発行機関紙等のデーター		
評価方法	定期試験結果により判定・評価を行う。		
フィードバック	授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。		
受講者へのメッセージ	児童養護施設に勤務し講義内容も理論と実践の乖離が起きないように留意し、実経験に基づく援助技術や養育(保育)実践を用いて、保育現場での必要な手法を伝えるので積極的に自分の考えや意見を持って参加しましょう。		

授業概要(シラバス)

科目名	社会的養護Ⅱ		
科目担当者	中 村 聡	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・1単位 15時間		
配当学年・時期	・2年次 前期		
授業の目的・ねらい	施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 社会的養護での実践事例として、計画・記録・自己評価について理解し、実践事例に基づいて相談援助の方法・技術や子ども虐待の防止と家庭支援などについて学ぶ。		
到達目標	施設の実践事例を理解し、社会的養護に関心や興味を持てる。 実践事例の検討により、社会的養護に求められる専門性について理解する。		
授業計画	第1回	社会的養護の基本原則	
	第2回	社会的養護における専門職と保育士の倫理・責務とその資質	
	第3回	施設養護の実際（1） 施設養護	
	第4回	施設養護の実際（2） 関係機関の機能と役割	
	第5回	家庭養護の実際（3） 里親、ファミリーホーム	
	第6回	社会的養護における保育士の専門性（1） 求められる専門的な知識と技術	
	第7回	社会的養護における保育士の専門性（2） 相談援助の知識と技術	
	第8回	会的養護における支援方法 個別支援計画の作成と実践	
使用図書	「社会的養護Ⅰ」（配本テキスト）「社会的養護内容」（萌文書林）、全国児童養護施設協議会発行機関紙等のデーター		
評価方法	定期試験結果により判定・評価を行う。		
フィードバック	授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。		
受講者へのメッセージ	児童養護施に勤務し講義内容も理論と実践の乖離が起きないように留意し、実経験に基づく援助技術や養育(保育)実践を用いて、保育現場での必要な手法を伝えるので積極的に自分の考えや意見を持って参加しましょう。		

科目名	教職論		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 前期		
授業の目的・ねらい	・教職（保育）の意義、教職者（保育者）の役割・資質能力・職務内容についての理解を深める。 ・教職（保育）は、子どもの成長発達に指導、援助することが役割であることを理解する。 ・教育（保育）への課題に関心を持ち、目指す教職者像の隔離地を図る。		
到達目標	・教職者（保育者）とは何かが理解できる。 ・教職者としての意欲・態度・自覚が見られるようになる。		
授業計画	第 1 回	・教職（保育）の意義・定義・教職（保育）者とは何かを学ぶ。 ・保育の目的、魅力的な教育者（保育者）について知る	
	第 2 回	・教職（保育）者に求められる資質・能力とは何かを学ぶ。 ・法律・制度が求める資質能力とは何かを学ぶ。	
	第 3 回	・教員（保育者）養成の歴史を学ぶ。 ・黎明期の保育～幼稚園の改革について	
	第 4 回	・教職（保育）者の資質と役割について学ぶ。 ・教育（保育）現場を取り巻く環境の変化について	
	第 5 回	・指導計画（保育のねらい・内容）についての意味を学ぶ。 ・保育計画の必要性について調べ「ねらい」と「内容」について理解する。	
	第 6 回	・教職（保育）者の仕事や義務、研修について理解する。 ・教員の仕事についての内容について学ぶ。	
	第 7 回	・教職（保育）者の職場環境を理解する。 ・保育者の勤務状況を把握し、職場環境について討議する。	
	第 8 回	・教職者制度を学ぶ。 ・教職者の基本的な位置づけや幼稚園教諭、保育士、保育教諭の位置づけを学ぶ	
	第 9 回	・教職者の任用と服務関係について ・教員の服務と身分保障	
	第 1 0 回	・教育（保育）現場における子どもとのかかわりについて（あそび・環境） ・環境による保育とは何かを学び、子どもの遊びから学ぶ理解と援助	
	第 1 1 回	・教育（保育）現場における家庭との連携・支援・地域との連携 ・家庭・地域・関係機関との連携について知る。	
	第 1 2 回	・教職'（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割について ・教職観の変遷や今、求められる教員の役割について	
	第 1 3 回	・保育園・幼稚園・小学校の連携について ・職員間の連携や保育の場における関係性（継続カリキュラム）について	
	第 1 4 回	・今日的な教育課題に対応するためについて ・ジェンダーフリー、発達障害の子どもたちへの理解	
	第 15 回	・良い教職者（保育者）になるために ・カウンセリングとは何か	
	第 16 回	科目試験	
使用図書	・「教職論」テキスト：豊岡短期大学 原田敬文・丹後政俊・吉益敏文著者 ・「幼稚園教育要領開設」最新版（フレーベル館） ・「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル観） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）		
評価方法	・授業参加姿勢 ・レポート課題結果 ・科目試験評価結果		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・課題の提出期限を厳守しましょう。 ・意欲的に授業にとりくみましょう。		

科目名	発達心理学		
科目担当者	岩田昌子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2		
配当学年・時期	1年生前期		
授業の目的・ねらい	発達心理学に関する基礎知識を理解し、保育実践に活かせるようにすること		
到達目標	発達心理学に関する基礎知識を理解し、説明できる。 発達心理学の理論を裏付けとして、効果的で質の高い保育実践を他者とともに考えることができる。 人の一生の変化を理解し、自己理解・他者理解を深め、自分の人生を自分の足で歩く自覚を持つ。		
授業計画	第 1 回	①発達心理学とは ②発達の原理 ③保育者を目指すことへの思い	
	第 2 回	①遺伝と環境 ②発達心理学の理論的変遷	
	第 3 回	発達段階と発達課題	
	第 4 回	ピアジェの認知発達	
	第 5 回	①赤ちゃん観の転換 ②胎児期の発達 ③乳幼児期の発達 1（反射と運動、言葉の発達）	
	第 6 回	乳幼児期の発達 2 ①情緒発達 ②愛着とその発達 ③基本的信頼感	
	第 7 回	幼児前期 ①形態・機能発達 ②自我の芽生えとイヤイヤ期 ③自律性としつけ	
	第 8 回	幼児期後期 ①言語発達 ②遊びの発達	
	第 9 回	中間テストとここまでのまとめ	
	第 1 0 回	発達ファイル 発表会 ここまでの復習	
	第 1 1 回	児童期 ①児童期とはどのような時期か ②いじめ ③不登校	
	第 1 2 回	思春期・青年期 ①青年期とはどのような時期か ②アイデンティティ	
	第 1 3 回	成人期・中年期・老年期 ①成人期 ②中年期 ③老年期	
	第 1 4 回	保育者の発達	
	第 15回	まとめ	
使用図書	発達心理学（豊岡配布テキスト） 授業配布時プリント		
評価方法	課題（40％） テスト（30％） リフレクションシートを含む授業態度（30％）		
フィードバック	授業内にて口頭で行う		
受講者へのメッセージ	発達心理学では、人間の発達を学ぶことを通して、保育の対象となる幼児だけではなく、自分自身の発達にも目を向けて、発達とは何かを考えていってください。授業内ではグループでのワークも行いますので、積極的に参加し、意見交換してください。なお、課題は期限を守って提出してください。		

科目名	こどもの発達と家庭支援		
科目担当者	佐野 育枝	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 後期		
授業の目的・ねらい	・ 保育者として発達を学ぶことの意義を理解する。 ・ 子どもと家庭のおかれている背景を理解し、保育現場での子どもの支援と、子どもを育てる家庭への支援が適切に行えるようになる。		
到達目標	・ 様々な研究者の発達段階について理解する ・ 子ども家庭の変化について自分の意見が述べられる ・ 家庭教育について自分の意見が述べられる		
授業計画	第 1 回	・ オリエンテーション ・ 保育における心理学とは何かについて学ぶ	
	第 2 回	・ 発達とは何かを学ぶ (発達過程、発達段階、発達課題)	
	第 3 回	・ 「生涯発達」とは何かについて学ぶ ・ 遺伝と環境について学ぶ	
	第 4 回	・ 愛着関係と愛着行動について学ぶ ・ ライフサイクル論について学ぶ	
	第 5 回	・ これからの家庭教育の在り方について学ぶ ・ 家族・家庭の意義と機能について学ぶ	
	第 6 回	・ 家庭における教育・家庭教育に関する学習機会について学ぶ ・ 家族、地域の変化と子育て支援について学ぶ	
	第 7 回	・ 父親の家庭教育参加の支援・促進について学ぶ ・ グループ発表についての説明	
	第 8 回	・ グループ発表「子どもや家庭を取り巻く諸課題」について調べ学習をし、発表をする	
	第 9 回	・ 子どもを取り巻く社会状況について学ぶ ・ 子育て家庭を取り巻く状況と家庭をめぐる変化について学ぶ	
	第 1 0 回	・ 社会的な意識変化の必要性について学ぶ (婚姻・出産の状況。晩婚化など)	
	第 1 1 回	・ 子育て支援について学ぶ (保育所における子育て支援、子ども・子育て支援新制度の概要)	
	第 1 2 回	・ ライフコースと仕事・子育てについて学ぶ (少子化対策、生涯未婚率、女性の労働率)	
	第 1 3 回	・ 多様な家庭の理解について学ぶ ・ 特別な配慮を要する家庭について学ぶ(ひとり親、障害のある子度の家族、外国籍)	
	第 1 4 回	・ 子どもの生活・生育環境とその影響について学ぶ ・ 家庭や地域社会の現状について学ぶ	
	第 15回	・ 子どもの貧困について学ぶ/・子どもの心の健康にかかわる問題について学ぶ ・ まとめ	
	第 16回	科目試験	
使用図書	「子どもの発達と家庭支援」(豊岡短期大学テキスト)		
評価方法	①考査(5 0 %)、②授業態度・リアクションペーパー(3 0 %)、③課題レポート(2 0 %)、		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・ 授業内で、自分の意見を求めることが多いので、普段から自分が子どもを取り巻く環境について、どのように考えているのかを意識してしてください。 ・ グループ発表を通して、人に伝える要点をおさえることを身につけてほしいと思います。		

科目名	教育課程論		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 後期		
授業の目的・ねらい	・子どもを育てる上での目標、方法・手だて、内容、時期、環境をどのように理解するかを学ぶ。 ・幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割について学ぶ。 ・保護者や関係機関との連携について学ぶ。		
到達目標	・保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程や保育過程について理解できる ・教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について習得できるようになる。 ・保護者や関係機関との連携の必要さが理解できる		
授業計画	第 1 回	・カリキュラムの基礎理論 ・保育カリキュラムの必要性	
	第 2 回	・幼児教育・保育の基本とカリキュラムに求められるもの ・幼児教育・保育の基本、社気に開かれた教育課程	
	第 3 回	・幼児教育・保育カリキュラムの思想と歴史 ・オウエン他の幼児教育思想について	
	第 4 回	・日本における教育課程：保育課程の歴史的変遷 ・幼稚園教育要領の改訂・保育所保育指針の改定、幼保連携型認定こども園、保育要領の改訂について	
	第 5 回	・全体的な計画に関わる法規の理解 ・園生活と長期・短期の指導計画作成の基本	
	第 6 回	・教育課程の編成と全体的な計画の作成 ・計画の作成手順と留意事項	
	第 7 回	・長期・短期指導計画の作成 ・教育課程・全体的な計画と指導計画	
	第 8 回	・指導計画の作成手順 ・指導計画の実際	
	第 9 回	・幼児教育・保育の質の向上とカリキュラム・マネジメント ・保育の質の向上に向けた改善の取り組み	
	第 1 0 回	・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続 ・幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けて	
	第 1 1 回	・学びの芽生えと自覚的な学びをつなぐスターとカリキュラムについて ・発達と学びをつなぐ手立てについて	
	第 1 2 回	・子どもの健康及び安全に配慮した教育：保育カリキュラム ・子どもの健康支援	
	第 1 3 回	・食育の推進 ・生きる力を育む安全教育と安全管理	
	第 1 4 回	・特別な配慮を必要とする子どもへの指導計画 ・障がいのある子ども、外国人幼児などへの指導計画	
	第 15 回	・家庭・地域との連携と地域子育て支援 ・幼稚園、保育所における子育て支援	
	第 16 回	科目試験	
使用図書	・「教育課程論」テキスト：豊岡短期大学 肥後耕生著者 ・「幼稚園教育要領開設」最新版（フレーベル館） ・「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル観） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）		
評価方法	・授業参加姿勢 ・レポート課題結果 ・科目試験評価結果		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・課題の提出期限を厳守しましょう。 ・意欲的に授業にとりくみましょう。		

科目名	保育内容総論		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	1単位・15時間		
配当学年・時期	1年次 後期		
授業の目的・ねらい	・領域別に学んだ内容を子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。 ・保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解する。 ・乳幼児期の発達過程、園での生活遊び、保育計画、具体的な援助等について学ぶ。		
到達目標	・保育内容の構造を理解でき、「養護と教育の一体性」の意味を捉えることができる。 ・保育内容の全般を捉え、子育て支援においても理解できるようになる。		
授業計画	第1回	・保育の全体的な構造を知る ・育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について	
	第2回	・保育内容の歴史的変遷 ・変遷にみる特徴と課題	
	第3回	・養護と教育の一体的展開 ・養護的なかかわりと教育的なかかわり	
	第4回	・乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ・乳幼児にとっての園行事の意味とあり方	
	第5回	・生きる力の基を育む保育内容の展開 ・環境を通して行う保育と遊びによる総合的な保育	
	第6回	・全体的な計画の作成と指導計画の作成 ・指導計画の作成手順と配慮	
	第7回	・保育の評価と保育の記録 ・観察記録を書く意味と幼児理解	
	第8回	・まとめと今後の課題 ・子育て支援や多文化共生保育	
	第9回	科目試験	
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
第 回			
第 回			
使用図書	・「保育内容総論」テキスト：豊岡短期大学 栗岡あけみ 宿南久美子 和田真由美 位田かつ代著 ・「幼稚園教育要領開設」最新版（フレーベル館） ・「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル館） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）		
評価方法	・授業参加姿勢 ・科目試験評価結果		
フィードバック	・講義じにリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・課題の提出期限を厳守しましょう。 ・意欲的に授業に取り組みましょう。		

科目名	乳幼児保育Ⅰ		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	30回		
配当学年・時期	1年次 後期		
授業の目的・ねらい	・乳幼児一人一人が、大切に育てられるための発達と保育の基礎知識を学ぶ。 ・個々の子どもがその子らしく発達している保育方法を明確に学ぶ。		
到達目標	・乳幼児保育の意義と歴史的返還、及び背景等の重要性について理解する。 ・乳幼児の心身の発達の特徴を理解する。 ・乳幼児保育の現状と課題について理解する。		
授業計画（前期）	第1回	・ガイダンス（授業の進め方） 乳幼児保育の意義 ・乳幼児の生活を知る（DVD視聴）	
	第2回	・乳幼児の歴史的返還	
	第3回	・乳幼児の発達理解（生命の誕生～）	
	第4回	・保育所における乳幼児保育	
	第5回	・保育所外における乳幼児保育（乳児院等）	
	第6回	・乳幼児の発達と具体的な保育方法（新生児～6か月）	
	第7回	・乳幼児の発達と具体的な保育方法（6カ月～1歳3か月）	
	第8回	・乳幼児の発達と具体的な保育方法（1歳3か月～2歳）	
	第9回	・乳幼児の発達と具体的な保育方法（2歳～3歳）	
	第10回	・乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義1 全体的な計画、個人別指導計画について	
	第11回	・乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義2 保育の記録、評価・反省について	
	第12回	・保護者とのパートナーシップの持ち方 保育の連絡帳について	
	第13回	・乳幼児保育の保健・衛生・安全危機管理について① 登園時・保育中・降園時における観察のポイント	
	第14回	・乳幼児保育の保健・衛生・安全危機管理について② アレルギー疾患等を有するこどもの保育	
	第15回	・乳幼児保育の重要性と課題	
使用図書	・「乳幼児保育Ⅰ」豊岡短期大学テキスト ・「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル館） ・「幼保連携型こども園 教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）		
評価方法	・授業参加姿勢 ・レポート課題結果 ・科目試験評価結果		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しよう。 ・加地の提出期限を厳守しよう。 ・意欲的に授業に取り組もう。		

科目名	乳幼児保育Ⅱ		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	8回		
配当学年・時期	2 年次 前期		
授業の目的・ねらい	・3歳未満児の成長発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりの基本的な考え方について理解する。 ・3歳未満児の発達を捉える視点、愛情を持って子どもと関わる姿勢、適切な援助や環境の構成及び知識と技術を身につけ理解する。		
到達目標	・人間の基本的な発達の枠組みができる乳児期の育ちの意味を理解する。 ・乳児保育の計画を作成し、保育内容や方法、環境構成、保育者の援助の仕方を理解する ・養護と教育の一体性を踏まえ子どもの生活や遊びを理解できる。		
授業計画（前期）	第 1 回	・乳児保育の基本	
		・乳児保育の実態と一日の流れ	
	第 2 回	・育児の実際と援助のポイント	
		・【演習】沐浴と調乳と哺乳の援助	
	第 3 回	・育児の実際と援助のポイント	
		・【演習】おむつ交換と手洗いの援助	
	第 4 回	・3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びの援助やかかわり	
	第 5 回	・3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びの実践	
		・【演習】手作りおもちゃを作る	
	第 6 回	・子どもの心身の健康、安全と情緒の安定を図るための配慮	
		・育児担当保育について	
	第 7 回	・乳児保育を支える地域の関係機関との連携	
		・子育て支援センターとの連携	
	第 8 回	・乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義 ・指導計画、保育の記録、評価反省についての確認	
		科目試験	
使用図書	・「乳幼児保育Ⅰ」豊岡短期大学テキスト ・「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル館） ・「幼保連携型こども園 教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館） ・演習で学ぶ乳児保育 わかば社		
評価方法	・授業参加姿勢 ・レポート課題結果 ・科目試験評価結果		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しよう。 ・課題の提出期限を厳守しよう。 ・意欲的に授業に取り組もう。		

科目名	人間関係論		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	1単位・15時間		
配当学年・時期	1 年次 後期		
授業の目的・ねらい	・現代の子どもの育ちに影響を与えている社会的要因を理解し、教育内容に関する知識を身につける。 ・子どもを取り巻く他者との関係、集団との関係から子どもの人間関係を考察する。 ・乳幼児の子どもたちが人とのかかわりを通じて育つことを理解する。		
到達目標	・領域「人間関係」の考え方について理解し、人間関係の成立と展開が分かる。 ・保育実践において、人間関係をはぐくむ際の保育者の役割について理解できるようになる。 ・子どもの発達に応じた保育の在り方が理解できるようになる。		
授業計画	第 1 回	・領域「人間関係」のねらいと内容について知る。 ・自分を知ることの必要性と保育活動の総合性について	
	第 2 回	・人間関係と取り巻く社会環境 その 1 少子高齢化など家族の変化について	
	第 3 回	・人間関係と取り巻く社会環境 その 2 身近な環境の変容及びメディアの変化について	
	第 4 回	・人間関係をつむぐ子どもの発達 (1) ・規範意識と道徳性の芽生え（育ち）、ルール・決まり事の意味と意義	
	第 5 回	・人間関係をつむぐ子どもの発達 (2) ・自立心、協同性の芽生え（育ち）、事故発揮と自己抑制の芽生え（育ち）	
	第 6 回	・人間関係と子どもの遊び ・遊びの中で育つ乳児の人間関係 遊びの中で育つ幼児の人間関係	
	第 7 回	・人間関係と子どもの生活 ・家庭や地域とのかかわりとこどもの発達について	
	第 8 回	・今日的な人間関係の課題 ・多様な文化の子どもと気に留めたいこども	
	第 9 回	科目試験	
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	使用図書	・「人間関係論」テキスト：豊岡短期大学 ・「幼稚園教育要領開設」最新版（フレーベル館） ・領域「人間関係」田宮縁著 萌文書林 ・「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル観） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）	
評価方法	・授業参加姿勢 ・レポート課題結果 ・科目試験評価結果		
フィードバック	・講義じにリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・課題の提出期限を厳守しましょう。 ・意欲的に授業にとりくみましょう。		

科目名	・保育指導法Ⅰ		
科目担当者	・学科教員 富山幹子・竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・1単位 15時間		
配当学年・時期	・1年次 前期		
授業の目的・ねらい	・保育者としての基本的資質能力の確認と質の向上を図る。		
	・保育所・幼稚園・認定こども園について理解する。		
	・保育所保育や子どもの発達や保育内容について理解を深める。		
到達目標	・保育所・幼稚園・認定こども園についての違いが分かる。		
	・保育士としての責任感や使命感、保育内容について理解できるようになる。		
授業計画（前期）	第1回	・オリエンテーション ・授業の内容や進め方について話を聞く	
	第2回	・保育実習の意義・目的について学ぶ ・2年間の実習概要について知る	
	第3回	・実習に必要な名札を作成する ・自分で考えた名札を作る	
	第4回	・三法令について学ぶ ・保育所・幼稚園・認定こども園についてグループで話し合う。	
	第5回	・保育士倫理要領、児童憲章について学ぶ	
	第6回	・子どもの発達と特徴について学ぶ ・0歳児、1歳児、2歳児について理解する	
	第7回	・保育専門用語を学ぶ ・漢字テストを行い、解答及び解説を理解する。	
	第8回	・実習記録の書き方について ・予想される子どもの活動、援助について理解する	
	第9回	・保育専門用語を学ぶ ・漢字テストを行い、解答及び解説を理解する。	
	第10回	・絵本について学ぶ ・絵本の重要性、絵本選びのポイントを理解する	
	第11回	・子どもとのかかわりを学ぶ ・トラブルや喧嘩の対応について	
	第12回	・実習記録の書き方について ・ねらい、内容について理解する。	
	第13回	・実習記録の書き方について ・予想される子どもの活動、援助について理解する	
	第14回	・保育専門用語を学ぶ ・読み仮名テストを行い、解答及び解説を理解する。	
	第15回	・まとめ	
使用図書	・保育所保育指針 解決書 厚生労働省編 (株)フレーベル館190円 ・ここがポイント 3法令ガイドブック 武藤隆・汐見稔幸・砂上史子著 926円		
評価方法	・授業態度50％ ・提出物50％		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・保育全般に対する学びの授業です。欠席すると内容が理解できなくなります。 ・グループ討議を授業の中に組み入れてあります。自分の意見を持って授業に参加しましょう。		

科目名	・ 保育指導法Ⅱ		
科目担当者	・ 学科教員 富山幹子,竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 1 単位 1 5 時間		
配当学年・時期	・ 2 年次 後期		
授業の目的・ねらい	・ 保育者としての基本的資質能力の確認と質の向上を図る。 ・ 幼児理解や学級経営、保育内容等の指導力を学ぶ。		
到達目標	・ 幼児理解を深めることが大切であることを自覚し、取り組む姿勢を持つようになる。 ・ 幼稚園教諭としての任務と使命を自覚できるようになる。		
授業計画（後期）	第 1 回	・ オリエンテーション ・ 授業の内容について話を聞き、	
	第 2 回	・ 子どもの発達と特徴について再確認する 【演習】 0 歳児、1 歳児、2 歳児について理解する	
	第 3 回	・ 子どもの発達と特徴について再確認する 【演習】 3 歳児の特徴や姿について理解する	
	第 4 回	・ 子どもの発達と特徴について再確認する 【演習】 4 歳児の特徴や姿について理解する	
	第 5 回	・ 子どもの発達と特徴について再確認する 【演習】 5 歳児の特徴や姿について理解する	
	第 6 回	・ 研究保育の指導案について理解する。 ・ 自己の得意とするものを考え、指導案を作成する。	
	第 7 回	・ 立てた指導案を発表しあい、クラスの代表グループを決める。	
	第 8 回	・ 1年生に対し公開保育を行い、実践する。	
		・ 反省会及び、感想を発表しあう。	
使用図書	・ 幼稚園教育要領解説書 文部科学省 (株)フレーベル館 ・ 保育所保育指針 解説書 厚生労働省編 (株)フレーベル館 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 文部科学省 厚生労働省編 (株)フレーベル館		
評価方法	・ 授業態度 5 0 % ・ 提出物 5 0 %		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・ 保育全般に対する学びの授業です。欠席すると内容が理解できなくなります。 ・ 幼稚園実習に関する内容を学びます。全授業に出席し、積極的に取り組みましょう。		

科目名	こどもの保健		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・ 3 0 時間		
配当学年・時期	2 年次 前期		
授業の目的・ねらい	・小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的、社会性を踏まえた発達について学ぶ。 ・発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学ぶ。		
到達目標	・子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かすことができるようになる。 ・子どもを取り巻く環境が理解でき、他者との連携をとることの大切さがわかる。		
授業計画	第 1 回	・保育の中にみるこどもの保健 ・保育の中にみるこどもの保健こどもの保健の意義と目的	
	第 2 回	・こどもの発育・発達と保健 ・こどもの成長発達における一般的原則	
	第 3 回	・子どもの身体的発育・発達と保健 ・身体的発育・運動機能の発達	
	第 4 回	・こどもの運動・精神機能の発達 ・乳幼児の運動機能について	
	第 5 回	・こどもの心身の健康状態について ・健康観察と判断	
	第 6 回	・こどもの疾病と保育 ・体調不良の症状と対応	
	第 7 回	・感染症の予防と対策について	
	第 8 回	・子どもの疾患の特徴と対応 ・アレルギー疾患	
	第 9 回	・子どもの生活習慣病について	
	第 1 0 回	・障がいのある子どもの保育① ・保護者との連携及び共有	
	第 1 1 回	・障がいのある子どもの保育② ・障がいのの概念と対応	
	第 1 2 回	・災害対策	
	第 1 3 回	・健康及び安全管理の実施体制 ・職員間の連携等組織的な取り組みについて	
	第 1 4 回	・プライバシー保護・守秘義務	
	第 15 回	・家庭・専門機関・地域との連携	
	第 16 回	科目試験	
使用図書	・「こどもの保健」テキスト：豊岡短期大学 宮津澄江著 ・健やかな育ちを支える人への子どもの保健 村松十和・岡本美和子 樹村房 ・「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）		
評価方法	・授業参加姿勢 科目試験評価結果		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・課題の提出期限を厳守しましょう。 ・意欲的に授業に取り組みましょう。 ・意欲的に授業にとりくみましょう。		

科目名	こども家庭支援論		
科目担当者	池田信子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	2年次 後期		
授業の目的・ねらい	・子どもを取り巻く環境が変化してきている。現代の子育て支援の現状と課題を理解する。		
到達目標	・保育士として保育のみならず子育て支援に関わる専門的な知識や技術を身に付け適切に保護者の子育て支援が出来るようにする。		
授業計画	第 1 回	・ガイダンス ・第一章子ども家庭支援の意義と必要性	
	第 2 回	・第二章こども家庭支援の目的と機能	
	第 3 回	・第三章保育の専門性を活かしたこども家庭支援とその定義	
	第 4 回	・第四章子どもの育ちの喜びの共有	
	第 5 回	・第五章保護者及び地域が有する子育て	
	第 6 回	・第六章保育士に求められる基本的態度	
	第 7 回	・第七章家庭の状況に応じた支援	
	第 8 回	・第八章地域の資源の活用	
	第 9 回	・第九章子育て家庭の福祉を図るための社会資源	
	第 1 0 回	・第十章子育て支援施設	
	第 1 1 回	・第十一章こども家庭支援の内容と対照	
	第 1 2 回	・第十二章保育所等を利用する子どもの家庭への支援	
	第 1 3 回	・第十三章地域の子育て家庭への支援	
	第 1 4 回	・第十四章要保護家庭、児童への支援	
	第 15回	・第十五章子ども家庭支援に関する現状と課題	
使用図書	「子ども家庭支援論」 守 巧編著 萌文書林		
評価方法	①考査(5 0 %)、②課題(3 0 %)、③授業態度(2 0 %)、		
フィードバック	・リアクションペーパーへの質問は次の授業で応じる。		
受講者へのメッセージ	・保育士になり支援する家庭は多種多様です。多様な子育て支援の基礎を学びましょう。		

科目名	・子どもの食と栄養		
科目担当者	・武田 康代	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2単位		
配当学年・時期	・2年次 前期		
授業の目的・ねらい	・保育士として子どもに必要な栄養素の基本的な知識を修得する。 ・各ライフステージ別の発育・発達と食生活の内容を修得する。 ・「食を営む力」の育成にむけ、保育の一環としての食育の実践を理解する。		
到達目標	・子どもの発育・発達と食生活の関連について説明できる。 ・健康な生活の基本としての食生活の意義や食育のための環境について説明できる。 ・食育について、子どもたちに対してどのように展開していくかを工夫することができる。		
授業計画	第1回	・オリエンテーション ・子どもの健康と食生活の意義について説明できる。	
	第2回	・栄養に関する基礎知識 ・5大栄養素・3色食品群・食事バランスガイド・日本人の食事摂取基準について説明できる	
	第3回	・妊娠期と授乳期の食生活 ・母体の健康と胎児や乳幼児の発育についての栄養管理の必要性について理解する。	
	第4回	・乳児期の発育・発達と食生活 ・乳児期に起こりやすい栄養の問題を理解し、保護者の悩みを支援する方法を修得する。	
	第5回	・幼児期の発育・発達と食生活 ・食事形態や食卓環境などの配慮を説明できる。	
	第6回	・学童期・思春期の発育・発達と食生活 ・学校・家庭・地域における食育を通した、食の自己管理能力の形成の重要性を理解する。	
	第7回	・アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 ・保育所での食物アレルギー対応に関して説明できる。	
	第8回	・食育の基本と内容 まとめ ・「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを理解する。 まとめ	
使用図書	子どもの食と栄養 羊土社 太田百合子、堤ちはる 編著 ISBN978-4-7581-0911-6		
評価方法	食育演習ノート30% レポート20% 筆記試験50% 計100%		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	乳幼児の食生活の学びを通して、保育者自身が適切な食生活を実践する力を養いましょう。これから出会う子どもたちにとって、「うれしい・おいしい・楽しい」食育活動へと展開できることを目指します。		

科目名	子どもの理解と援助		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	1単位・15時間		
配当学年・時期	2 年次 前期		
授業の目的・ねらい	・ 保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・ 子どもを理解するための具体的な方法や保育士の援助や態度の基本について理解する。		
到達目標	・ 子どもの体験や学びの過程似において子どもを理解する上で基本的な考え方がわかるようになる。 ・ 子どもの内面を少しずつ理解しようと事例課題に積極的に取り組むようになる。		
授業計画	第 1 回	・ 保育における子ども理解の意義 ・ 保育における子ども理解の意義保育者に求められる子ども理解	
	第 2 回	・ 子どもに対するかかわりと共感的理解 ・ 「保育」の中心にある子ども理解…事例①	
	第 3 回	・ 子どもの生活や遊びと学び ・ トイレットとレーニングの事例②	
	第 4 回	・ 保育における人的環境としての保育者と子どもの発達 ・ 子どもを取り巻く人的環境の在り方 言葉を置き換えるワーク③	
	第 5 回	自絵¥零 ・ 3 歳児の遊びと子どものかかわり④	
	第 6 回	。集団における経験と育ち ・ 集団への参加、集団の発展にかかわる保育者の援助	
	第 7 回	・ 発達における葛藤やつまづき ・ 葛藤が現れるとき⑤	
	第 8 回	・ 保育の環境の理解と構成 ・ 赤ちゃんかわいいよ⑥	
	第 9 回	科目試験	
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
第 回			
第 回			
使用図書	・ 子どもの理解と援助 子どもの育ちと学びの理解と保育実践 藪中征代 玉瀬友美編著 萌文書林 ・ 「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル観） ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）		
評価方法	・ 授業参加姿勢 ・ 科目試験評価結果		
フィードバック	・ 講義じにリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・ 遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・ 課題の提出期限を厳守しましょう。 ・ 意欲的に授業に取り組みましょう。		

科目名	障害児保育		
科目担当者	池田信子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	2年次 後期		
授業の目的・ねらい			
到達目標	・ 特別なニーズを持つ子供に内する保育について自分の言葉で語れるようになる。		
授業計画	第 1 回	・ ガイダンス：「障害児とは？」 「障害児保育とは？」	
	第 2 回	・ 第1章 なぜ特別な支援が必要なのか	
	第 3 回	・ 第2章 発達を理解する	
	第 4 回	・ 第3章 発達の違いを理解する	
	第 5 回	・ 障害のある子どもと家族の理解①	
	第 6 回	・ 障害のある子どもと家族の理解②	
	第 7 回	・ 障害のある子どもと家族の理解③	
	第 8 回	・ 障害のある子どもと家族の理解④	
	第 9 回	・ 障害のある子どもと家族の理解⑤（まとめ・課題 1）	
	第 1 0 回	・ 障害の特性を理解する（1）①肢体不自由②知的障害（第3章）	
	第 1 1 回	・ 障害の特性を理解する（2）①自閉症スペクトラム障害（第4.5章）	
	第 1 2 回	・ 支援方法を理解する（1）心の支援・発達論による支援（第6.7章）	
	第 1 3 回	・ 支援方法を理解する（2）行動への支援・環境調整による支援（第8.9章）	
	第 1 4 回	・ 支援方法を理解する（3）連携（第10章）	
	第 15回	まとめ	
使用図書	「障害児保育ワークブック」星山 麻木 編著 萌文書林		
評価方法	①考査(5 0 %)、②課題(3 0 %)、③授業態度(2 0 %)、		
フィードバック	・ リアクションペーパーへの質問は次の授業で応じる。		
受講者へのメッセージ	・ どの子にも同じ尊い生命がある事を理解し、多様な生き方を認めていける人として成長していきましょう。		

科目名	子どもの健康と安全		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	1単位・15時間		
配当学年・時期	2年次 後期		
授業の目的・ねらい	・子どもの健康安全にかかわる保健的対応を学ぶ。 ・子どもの発達等に即した適切な具体的援助を学ぶ。		
到達目標	・演習を通して実践力を高めるようになる。 ・具体的な対応や援助方法を身につけ保育現場で活かすことができる。		
授業計画	第1回	・こどもの保健的観点を踏まえた保育環境と援助 ・子どもの健康と保育環境	
	第2回	・集団保育の中での健康及び安全管理 ・保育における感染症対策	
	第3回	・子どもの感染症発症時と病後の対応 ・保育園での集団発生の予防	
	第4回	・家庭・関係機関などとの連携 ・保育における健康・安全の危機管理	
	第5回	・衛生管理 ・災害時の備え	
	第6回	・事故防止安全対策 ・集団生活における事故の特徴	
	第7回	・保育現場における保健活動と危機管理① ・健康管理の意義と内容	
	第8回	・保育現場における保健活動と危機管理② ・危機的対応への心構えと管理体制	
	第9回	科目試験	
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	使用図書	・「こどもの保健」テキスト：豊岡短期大学 宮津澄江著 ・健やかな育ちを支える人への子どもの保健 村松十和・岡本美和子 樹村房 ・「保育所保育指針解説」最新版（フレーベル館） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）	
評価方法	・授業参加姿勢 科目試験評価結果		
フィードバック	・講義じにリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・課題の提出期限を厳守しましょう。 ・意欲的に授業にとりくみましょう。		

科目名	子育て支援
	山内 博子 実務経験の有無 : 有
科目概要	この講義では、現代の家族をとりまく社会環境と、家庭生活における人間関係についての理解を深め、なぜ「子育て支援」が必要となるのか、その背景要因を学ぶ。また、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策の提供に向けて、子どもと家族の福祉をはかるための種々の援助活動や関係機関との連携について理解を深める。
到達目標	1. 現代家族を取り巻く社会的状況をふまえて子育て支援の必要性を把握する。 2. 子育て家庭の支援体制について、社会資源の面と制度施策の面から理解する。 3. 子育て支援の具体的な展開方法を、事例に即して検討し提案することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回： 家庭の意義とその機能 第2回： 家庭の変容と社会的状況 第3回： 現代家族をめぐる子育て環境 第4回： 現代家庭の子育てと支援の必要性 第5回： 子ども虐待への理解と対応 第6回： 特別な配慮を必要とする子どもを持つ親への支援 第7回： ひとり親家庭への支援 第8回： 子育て支援の施策 第9回： 多様化する家庭支援のニーズ 第10回： 家庭支援の原理とその課題 第11回： 保護者の心を聴くために 第12回： さまざまな家族とのかかわり 第13回： 保育所・幼稚園における家庭への支援 第14回： 社会的養護における家庭への支援 第15回： 児童家庭支援センターにおける家庭への支援 第16回： まとめ

科目名	こどもと体育Ⅰ		
科目担当者	浦野 忍	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 後期		
授業の目的・ねらい	こども個々の能力に応じた運動実践の方法を理解し、幼稚園・保育園・認定こども園における運動あそびを学習する。仲間との協力や、体を動かすことの楽しさと達成感を体験することで保育者としてどのように子どもへ伝えていくかを学ぶことを目的とする。		
到達目標	①学生自身が自分の体を意識してコントロールできる 体を動かすことの楽しさを体験学習する。 ②主体的・継続的に学び続ける習慣や健康保持増進の大切さを伝える力を身に付ける。 ③幼児が興味・関心を示し、楽しんで遊べるための展開や方法を身につける。		
授業計画	第 1 回	こどもの身体、形態、機能の発育・発達	
	第 2 回	心の発育・発達について	
	第 3 回	乳幼児の発達段階と運動	
	第 4 回	運動による脳・神経系の関係	
	第 5 回	運動能力と運動技能	
	第 6 回	幼児の運動能力	
	第 7 回	運動と人格的な発達	
	第 8 回	運動と知的活動	
	第 9 回	こどもの動作の発育・発達	
	第 1 0 回	運動遊びにおける保育者の役割	
	第 1 1 回	運動遊びの実際① 運動遊びの意義と乳幼児の遊び	
	第 1 2 回	運動遊びの実際② 親子あそび	
	第 1 3 回	運動遊びの実際③ 遊具を使わない遊び	
	第 1 4 回	運動遊びの実際④ 遊具を使った遊び	
	第 1 5 回	運動遊びと安全管理	
	第 1 6 回	科目試験	
使用図書	「こどもと体育Ⅰ」，長谷川定信，豊岡短期大学通信教育部， 他		
評価方法	定期試験60％ 授業の参加状況20％ 振り返りシート・課題20％		
フィードバック	質問事項等、必要なときに適宜行う。		
受講者へのメッセージ	演習授業多く含むため、全講義出席と積極的な参加を求める。		

科目名	特別支援教育		
科目担当者	山内 博子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	1 単位・ 15 時間		
配当学年・時期	2 年次 前 期		
授業の目的・ねらい	1, 一人ひとりの発達上の課題に対する特別な教育・保育ニーズの観点から障害理解を促す。 2, 特別支援教育・保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 3, 特別な支援が必要な子どもへの支援と家族支援、関連機関との連携のあり方を学ぶ。		
到達目標	1, 特別な教育・保育ニーズの視点から、一人ひとりの発達上課題を理解する。 2, 特別支援教育・保育の基礎となる理念とその変遷、教育・保育の現状と今後の課題を理解する。 3, 特別な支援が必要な子どもの支援と家族支援、関係機関との連携のあり方を理解する。		
授業計画	第 1 回	・ 特別支援教育・保育の歴史的変遷を学ぶ	
	第 2 回	・ 障がいについて理解する	
	第 3 回	・ 特別支援教育の基本について学ぶ	
	第 4 回	・ 障がい児等の理解と教育・保育における発達の支援について	
	第 5 回	・ 発達障害の理解	
	第 6 回	・ その他特別な配慮を必要とするこども理解と支援について	
	第 7 回	・ 保護者や家族に対する理解と支援について	
	第 8 回		
	第 9 回	科目試験	
使用図書	・ テキスト無し ※オリジナルプリント配布		
評価方法	・ 定期試験80％ 授業の参加姿勢 20％		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・ 演習授業を行うこともあるため、全講義出席と積極的な参加が必要となります。 ・ 個人的な分野だけでなく、グループセッションも行うので自分の考えや意見を持って参加しましょう。		

科目名	・社会人基礎講座Ⅰ		
科目担当者	・富山幹子、竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・2単位　30時間		
配当学年・時期	・1年次　後期		
授業の目的・ねらい	・自分自身の内面を見つめ、生き方を模索し、必要なスキルアップを図る。 ・人としての基礎的な資質、能力、姿、態度を見つめ、より良い自分育てを目指す。 ・毎時の活動を記録し、自己理解や自己発見に気づく。		
到達目標	・自分自身の内面を見つめ、自己理解や自己発見をすることができる。 ・社会人に必要なコミュニケーションスキルを身につけることができる。 ・未来の姿をイメージし、自分自身の生き方を見つめることができる。		
授業計画（後期）	第1回	・オリエンテーション ・授業の内容や進め方について	
	第2回	・教育・保育の学びを理解する ・講義の聞き方、ノートの取り方	
	第3回	・自己理解、自分を見つめる。 ・自己理解のワークショップ	
	第4回	・レポートを書く技術を理解する ・レポートの書式とマナー、書き方、引用の方法	
	第5回	・社会人としての言葉遣いやマナーについて理解する ・尊敬語、丁寧語、謙譲語について	
	第6回	・他者理解、他者を見つめる。 ・他者理解のワークショップ	
	第7回	・コミュニケーションとは何かを理解する。 ・コミュニケーションの構造を学ぶ	
	第8回	・コミュニケーションとは何かを実践する。 ・コミュニケーションの構造で学んだことを実践する。	
	第9回	・自己紹介の仕方を学ぶ。 ・相手にわかるような自己紹介の仕方について学ぶ。	
	第10回	・自己紹介のための小道具づくりをする。 ・相手にわかるような演じ方について学ぶ。	
	第11回	・履歴書の意味や意義について学ぶ。 ・履歴書の書き方を学ぶ。	
	第12回	・日常漢字や話し言葉について学ぶ。 ・言葉の使い方、話し方について学ぶ。	
	第13回	・保育関連用語について学ぶ。 ・漢字の読み方、書き方について理解する。	
	第14回	・小テスト ・社会人としての心構え、マナーについて再確認をする。	
	第15回	・まとめ	
使用図書	・保育者養成のための初年次教育ワークブック　谷田貝公昭他監修大沢裕他編著　一芸社　2018.2月 ・わかる・書ける・使える保育の基本用語　わかば社　2021年2月 ・わかる・書ける・使える保育のマナーと言葉　わかば社　2020年2月		
評価方法	・定期試験（50％）　授業の参加姿勢・出席（20％）　提出物（30％）		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・実技や演習を行うので全講義出席と積極的な意見を言えるように心構えを追って参加する。 ・授業後は、講義を受講して学んだこと、感じたことを振り返りシートにまとめる。		

科目名	・社会人基礎講座Ⅱ		
科目担当者	・富山幹子、竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・2単位　30時間		
配当学年・時期	・2年次　前期		
授業の目的・ねらい	・職業生活に必要な基礎的能力を育成し、将来の生き方や進路を考える。 ・卒業後の自らのキャリアに向けて具体的に行動できる力を身につける。		
到達目標	・他者と協働して、社会へ参画する力や態度を身につける。 ・社会との相互関係を保ち、自分なりに「働くこと」の意義を見出す。 ・自分ができること・したいことを熟考する。		
授業計画（前期）	第1回	・オリエンテーション ・授業の進め方、就職活動スケジュールについて理解する	
	第2回	・将来の目標を設定し、自己を客観的に見つめる。 ・【演習】卒業後のキャリア、なりたい自分をを描く。	
	第3回	・ドリームマップを作成し自分の将来を考える ・10年後の自分をイメージする。	
	第4回	・ドリームマップを作成し、自分の将来を考える ・出来上がったドリームマップを発表し合う。	
	第5回	・マナーの心を伝える表現方法を理解する。 ・【演習】挨拶・身だしなみ・勤怠マナーについて学ぶ。	
	第6回	・マナーの心を伝える表現方法を理解する。 ・【演習】電話の応対マナーについて学ぶ。	
	第7回	・敬語と言葉使いについて再確認する。 ・プリントを利用し敬語の使い方を実践する。	
	第8回	・履歴書の意味や意義について学ぶ。 ・「氏名」「住所」「学歴・職歴」欄について書き方を理解し、記入する。	
	第9回	・履歴書の意味や意義について学ぶ。 ・「志望の動機」「アピールポイント」について理解し、記入する	
	第10回	・社会人としての話し方を学ぶ。 ・【演習】採用面接での自己PR、面接体験をする	
	第11回	・社会人としての話し方を学ぶ。 ・【演習】採用面接で試験管役を体験し、他者と自己を相互的に評価する。	
	第12回	・社会で求められる、望まれる人間像について学ぶ。 ・【演習】グループ討議・ポスター作成する	
	第13回	・社会で求められる、望まれる人間像について学ぶ。 ・【演習】グループポスター発表	
	第14回	・小テスト ・社会人として必要な言葉や漢字、マナーについての再確認をする。	
	第15回	・まとめ	
使用図書	・保育者養成のための初年次教育ワークブック　谷田貝公昭他監修大沢裕他編著　一芸社　2018.2月 ・わかる・書ける・使える保育の基本用語　わかば社　2021年2月		
	・わかる・書ける・使える保育のマナーと言葉　わかば社　2020年2月		
評価方法	・定期試験60％　授業の参加姿勢20％　振り返りシート20％		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・演習授業を行うこともあるため、全講義出席と積極的な参加が必要となります。 ・個人的な分野だけでなく、グループセッションも行うので自分の考えや意見を持って参加しましょう。		

科目名	・ 保育表現①		
科目担当者	・ 学科教員 富山幹子・ 竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 2単位 30時間		
配当学年・時期	・ 1年次 前期		
授業の目的・ねらい	・ 「こども遊び検定」の意味を理解し、進んで取り組む姿勢を持つ。 ・ 遊びの必要性を理解し、子どもの年齢発達に添った遊びを学ぶ。 ・ 子どもとかわるためのきっかけづくりとして沢山の遊びを身につける。		
到達目標	・ 「こども遊び検定」の項目について理解でき、楽しんで取り組むことができる。 ・ 折り紙の基本の折り方や手遊びが理解できる。		
授業計画（前期）	第1回	・ オリエンテーション ・ 授業の内容や進め方について話を聞く。	
	第2回	・ 「こどもあそび検定」について話を聞く ・ 「こどもあそび検定」の判定項目について	
	第3回	・ 園外保育体験をする。（学校付近の散歩） ・ 道路の歩き方や道草などの名前を知る	
	第4回	・ 春の自然遊びを体験する。 ・ 「草花の名前あて」	
	第5回	・ 春の折り紙遊びを覚える。 ・ 「鶴、チューリップ、つばめ、兜、こいのぼりなど」	
	第6回	・ 日常生活に必要な歌を歌う。 ・ おはようの歌・お帰りの歌・お給食の歌など	
	第7回	・ 簡単な手遊びを覚える。 ・ 「はじまるよ。お弁当箱、指の手遊び」	
	第8回	・ 簡単なリズム遊びをする。 ・ 曲に合わせて模倣遊びをする。	
	第9回	・ 折り紙で飛行機を作る。 ・ 遠くへ飛ばしっこ競争をする	
	第10回	・ 集団遊びゲームを楽しむ。 ・ 「フルーツバスケット」	
	第11回	・ 簡単な体操をする ・ 「エビカニクス」	
	第12回	・ けん玉遊びをする。 ・ 「大皿乗せ、中皿乗せなど」	
	第13回	・ 絵描き歌あそびをする。 ・ 「ちょうちょ、コックさん他」	
	第14回	・ ジャンケン遊びをする。 ・ 「あっちむいてホイ、渦巻きジャンケン他」	
	第15回	・ まとめ ・ 今までやったものを発表してみよう	
使用図書	・ 「いつ、どのように、使えるかが分かる」手遊び百科 ひかりのくに（株）2008年 編植田光子 2500円 ・ 遊びの指導 乳・幼児編 財団法人 幼少年教育研究所		
評価方法	・ 授業態度50％ 学びの姿勢50％		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。 ・ 遊び検定項目チェックシートにて確認する。		
受講者へのメッセージ	・ 子どもたちとかわるためには「あそび」がとても大切です。遊びの種類や遊び方を覚えます。 実習に行った時にも大活躍しますので、テクニックを身につけましょう。 ・ 遊び検定項目は200項目あります。卒業までに自分なりの沢山の「引き出し」を作っておきましょう。		

科目名	・ 保育表現①		
科目担当者	・ 学科教員 富山幹子・竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 2単位 30時間		
配当学年・時期	・ 1年次 後期		
授業の目的・ねらい	・ 季節の遊びを捉えて仲間と楽しく遊ぶ。 ・ 自ら遊ぶことによって遊び方を身につけ、指導の仕方を習得する。		
到達目標	・ 自ら遊びを経験することで相手の気持ちを十分受け止めることができるようになる。 ・ 簡単な遊びを第三者に説明することができるようになる。		
授業計画（後期）	第1回	・ 「こどもあそび検定」の遊びをする ・ 「マット運動」	
	第2回	・ 散歩を通して秋を感じる。 ・ 散歩時には、保育者役と子ども役に分け、園外保育を実施する。	
	第3回	・ 秋の自然遊びを体験する。	
	第4回	・ 思い切り身体を動かして遊ぶ。 ・ 「竹馬遊び」「すもうあそび」他	
	第5回	・ 戸外で集団遊びをする。 ・ 「あぶくたった」「むっくりくまさん」他	
	第6回	・ 戸外で集団遊びをする。 ・ 「猛獣がり」「だるまさんが転んだ」他	
	第7回	・ 手遊びをする。 ・ 「三ツ矢サイダー」「コロコロたまご」他	
	第8回	・ 近くの公園でドッジボールをする。 ・ 子どもの年齢に添った「ドッジボール」の種類を体験する	
	第9回	・ 曲に合わせて踊る。 ・ 「フォークダンス」他	
	第10回	・ 鬼ごっこあそびをする ・ 「ドロケイ」「缶蹴り」「手つなぎ鬼」他	
	第11回	・ ジャンケン遊びをする。 ・ 「ぐりこ」「せっせっせのよいよいよい」他	
	第12回	・ 体操をする。 ・ 「アンパンマン体操」「ラーメン体操」他	
	第13回	・ ふれあい遊びをする。 ・ 「アルプス一万尺」他	
	第14回	・ 鉄棒遊びをする。 ・ 「前回り」「後回り」「逆上がり」他	
	第15回	・ 「こどもあそび検定」の判定項目を確認する。	
使用図書	・ 「いつ、どのように、使えるかが分かる」手遊び百科 ひかりのくに（株）2008年 編植田光子 2500円 ・ 遊びの指導 乳・幼児編 財団法人 幼少年教育研究所		
評価方法	・ 授業態度50％ 学びの姿勢50％		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。 ・ 遊び検定項目チェックシートにて確認する。		
受講者へのメッセージ	・ 体を使った遊びを主に遊びの体験をします。友達と触れ合ったり、走ったりしますのでいつも運動のできる服装で参加しましょう。 ・ 遊び方や遊びの教え方、説明の仕方などを学びます。保育士にとって大切な授業です。休まないようにしましょう。		

科目名	・ 保育表現②		
科目担当者	・ 学科教員 富山幹子、竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 2単位 30時間		
配当学年・時期	・ 2年次 前期		
授業の目的・ねらい	・ 「 こども遊び検定 」を基盤とし、遊びの展開の仕方を学ぶ。 ・ 目的に対してグループでの協働性を図る。		
到達目標	・ 保育表現をめぐる保育者の役割を理解でき、子どもの成長にあった指導方法を模索できるようになる。 ・ 保育の場で対応できる知識、技術を習得でき、教材及び指導方法を身につけることができるようになる。		
授業計画（前期）	第1回	・ オリエンテーション ・ 授業内容や授業の進め方について話を聞く	
	第2回	・ 子どもにとって遊びとは何か？ ・ グループ討議をし、遊びの再認識をする。	
	第3回	・ 遊び検定遊びをする。 ・ フラフープで遊ぶ	
	第4回	・ みんなで体操をする ・ 「どうぶつ体操」をする	
	第5回	・ 壁面飾りを作る。 ・ 「夏」の壁面飾りの題材を決める	
	第6回	・ 壁面飾りを作る。 ・ 「夏」の壁面飾りを掲示する	
	第7回	・ 毛糸であやとりひもを作る。 ・ 二人あやとりをする	
	第8回	・ 折り紙遊びをする。 ・ 「ひまわり」「あさがお」他	
	第9回	・ お手玉遊びをする。 ・ 自分のお手玉を作る。（2つ）	
	第10回	・ 自分のお手玉で遊ぶ。 ・ 自分のお手玉を作る。	
	第11回	・ 「 こども遊び検定 」の項目を確認する。 ・ どの検定に取り組むか、自ら考えピックアップする。	
	第12回	・ 子どもの興味のある室外遊びを考える ・ グループ討議をする。	
	第13回	・ 子どもの興味のある室外遊びを考える ・ 各グループの遊びを発表しあい、みんなで実践する。	
	第14回	・ 室外遊びに必要なものを作る	
	第15回	・ まとめ	
使用図書	・ 「いつ、どのように、使えるかが分かる」手遊び百科 ひかりのくに（株）2008年 編植田光子 2500円 ・ 遊びの指導 乳・幼児編 財団法人 幼少年教育研究所		
評価方法	・ 授業態度50％ 学びの姿勢50％		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・ 製作についてはグループでの共同制作となるために、教材研究を日常的に行っておくことが大切です。 ・ 「 こども遊び検定 」では、個人で行うものとグループで行うものがありますので休まないように参加しましょう。		

科目名	・ 保育表現②		
科目担当者	・ 学科教員 富山幹子・竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 2単位 30時間		
配当学年・時期	・ 2年次 後期		
授業の目的・ねらい	・ 遊び検定を振り返りまとめる。 ・ 豊かな子どもの感性や表現する力を養うための保育の能力を習得する。		
到達目標	・ 保育表現をめぐる保育者の役割を理解でき、子どもの成長にあった指導方法を模索できるようになる。 ・ 保育の場で対応できる知識、技術を習得でき、教材及び指導方法を身につけることができるようになる。		
授業計画（後期）	第1回	・ オリエンテーション ・ 授業内容や授業の進め方について話を聞く	
	第2回	・ エプロンシアターについて話を聞く。 ・ 実際にエプロンシアターのお話を観る。	
	第3回	・ エプロンシアターの土台の色を決める。 ・ エプロンシアターの題材を決める。	
	第4回	・ 壁面飾りを作る。 ・ 「秋」の壁面飾りをみんなで作る	
	第5回	・ エプロンシアターを作成する。 ・ 下絵を描く。	
	第6回	・ エプロンシアターを作成する。 ・ 布（フェルト）を下絵に合わせて切る。	
	第7回	・ エプロンシアターを作成する。 ・ エプロンに背景を縫い付ける。	
	第8回	・ エプロンシアターを作成する。 ・ おはなしの登場人物を手縫いで作成する。	
	第9回	・ エプロンシアターを作成する。 ・ 出来上がった登場人物をマジックテープなどで止めるようにする。	
	第10回	・ 壁面飾りを作る。 ・ 「冬」の壁面飾りをみんなで作る	
	第11回	・ エプロンシアターの発表の仕方を学ぶ。 ・ 自己作品の発表の仕方を練習する。	
	第12回	・ みんなの前でエプロンシアターを発表する。 ・ 発表後、エプロンシアターについて意見交換をする。	
	第13回	・ 「こども遊び検定」の項目を確認する ・ 土の項目に取り組むか自ら考え、ピックアップする	
	第14回	・ 未完成の遊びを各自で習得する ・ 運動遊び、伝承遊び、手遊び	
	第15回	・ 未完成の遊びを各自で習得する ・ みんなでリズム遊びをする	
使用図書	・ 「いつ、どのように、使えるかが分かる」手遊び百科 ひかりのくに（株）2008年 編植田光子 2500円 ・ 遊びの指導 乳・幼児編 財団法人 幼少年教育研究所 2015年10月 3,200円		
評価方法	・ 授業態度50% 学びの姿勢50%		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・ 製作についてはグループでの共同制作となるために、教材研究を日常的に行っておくことが大切です。 ・ 「こども遊び検定」では、個人で行うものとグループで行うものがありますので休まないように参加しましょう。		

科目名	・製作活動		
科目担当者	・ 富山幹子,竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・ 2 単位 3 0 時間		
配当学年・時期	・ 1 年次 後期		
授業の目的・ねらい	・ 豊かな感性や表現する力を養う保育を学ぶ ・ 保育の専門職として子どもたちに適切な製作活動指導できる技量を身につける。		
到達目標	・ 子どもたちが持つ豊かな感性や表現を楽しむために必要と考える保育の能力と技術をさらに蓄積できる。 ・ ペープサートの作り方や演じ方が身につくことができる。 ・ パネルシアターを製作することで演じ方を身につけ次に繋げるようとする気持ちが育つ。		
授業計画（後期）	第 1 回	・ オリエンテーション ・ 授業の内容や進め方について話を聞く	
	第 2 回	・ ペープサートについて説明を聞く。 ・ ペープサートとはどのような物か、みんなでペープサートを観る。	
	第 3 回	・ ペープサートの題材を決める。 ・ 用紙に下絵を描く。	
	第 4 回	・ 下絵に色を付ける。 ・ ペープサートの演じ台の作り方を学ぶ。	
	第 5 回	・ ペープサートの演じ方を学ぶ。 ・ 自己作品の発表の仕方を練習をする。	
	第 6 回	・ みんなの前でペープサートを発表する。 ・ 発表後、ペープサートについて意見交換をする。	
	第 7 回	・ パネルシアターについて話を聞く。 ・ 実際にパネルシアターのお話を観る。・ 自分の演題を決める	
	第 8 回	・ パネルシアターの土台を作る。 ・ 土台に白布を貼る	
	第 9 回	・ パネルシアターの土台用のキルティング布を裁断する	
	第 1 0 回	・ パネルシアターの土台とキルティングカバーを縫い付ける	
	第 1 1 回	・ パネルシアターの登場人物の下絵を描く。	
	第 1 2 回	・ パネルシアターの登場人物に色塗りをする	
	第 1 3 回	・ パネルシアターの登場人物に色塗りをする ・ 自己作品の発表の仕方を練習する。	
	第 1 4 回	・ みんなの前でパネルシアターを発表する。	
	第 1 5 回	・ 発表後、パネルシアターについて意見交換をする。 ・ まとめ	
使用図書	・ テキスト無し。 ※オリジナルプリント配布。		
評価方法	・ 授業に取り組む姿勢や提出物により評価する。 ・ 授業内での取り組み50％ 提出物50％		
フィードバック	・ 講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・ 保育園児や幼稚園児が喜ぶものを作ります。実習に行った時に、子どもたちの前で演じることができ、とても役立つものです。自分の宝になるので、心を込めて作りましょう。 ・ 物作りは、その都度の授業が大切です。休まずに出席しましょう。		

科目名	・お便り講座		
科目担当者	・学科教員（竹川亜樹那）	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・2単位　30時間		
配当学年・時期	・2年次　後期		
授業の目的・ねらい	・パソコン技術の習得。 ・保育園だよりの必要性を理解し、オリジナルの保育園だよりを作成する。		
到達目標	・簡単なお便りづくりを通してパソコン入力の仕方ができる。 ・保育園だよりの意味が分かり、自分の保育園だよりを作ることができる。 ・保護者宛の手紙作成（行事案内）が出来る。		
授業計画（後期）	第1回	・オリエンテーション ・授業の内容と授業の進め方について話を聞く。	
	第2回	・自分のUSBにCD-ROMをコピーする方法を知る。 ・Word画面を出し、サイズや用紙選択、簡単な文字を入力する。	
	第3回	・Word画面にテキストの挿入をする。 ・簡単な文章を入力する。挨拶文やお便りの題名、○月号、などを入力する。	
	第4回	・文章の修正の仕方を理解する。 ・枠の設定、今月の目標、今月の歌の入力する。	
	第5回	・練習用の園だよりを完成する。 ・誕生日やその他お知らせ分を入力し、簡単な園だよりを作成する	
	第6回	・保育園だよりに記載される保育専門用語の漢字プリントを行う。	
	第7回	・手書きのお便りについて意味を理解し、手書きで園だよりを作成する。 ・文章の構成の仕方を習得する。	
	第8回	・手書きのお便りについて意味を理解し、手書きで園だよりを作成する。 ・イラストの描き方を習得する。	
	第9回	・保護者宛のおたよりについて意味を理解する。 ・文章の構成の仕方を習得する。	
	第10回	・保護者宛のおたよりについて意味を理解し、実際にパソコンで作成する	
	第11回	・保育園における連絡帳の意味を理解する。 ・園で使用している連絡帳について	
	第12回	・保育園における連絡帳の意味を理解する。 ・連絡帳の書き方について学ぶ。	
	第13回	・連絡帳を作成する。 ・連絡帳の内容をグループで討議し、理想の連絡帳を作る。	
	第14回	・テスト内容について ・お便りの作成月を知り、自分の考えをまとめる	
	第15回	・まとめ ・Wordにて、今までの復習をしながらお便りの作成をする。	
使用図書	・テキスト無し。 ※オリジナルプリント配布		
評価方法	・定期試験　30％　授業への取り組み及び提出物　70％		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・パソコンの入力の仕方を学びます。 ・園と家庭を結ぶお便りについて、記事項目やカット、文章内容など構成の仕方を習得します。 ・個人用のパソコンとUSBを第1回授業までには用意をしましょう。 ・1回1回授業内容が違います。欠席すると人より遅れてしまうので休まないようにしましょう。		

科目名	・卒業研究（小論文等）		
科目担当者	・学科教員 富山 幹子、竹川 亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・2単位 30時間		
配当学年・時期	・2年次 後期		
授業の目的・ねらい	・卒業研究課題を持って、理論的、実証的にまとめることを学ぶ		
	・日常生活の中で疑問を持つことや疑問に対して調べるという意識を持つ。		
	・自ら考え設定したテーマに取り組みスキルを持って人間力を高める		
到達目標	・自分の「問」について分析でき、文章化することができる。 ・自分の興味関心ごとを人前で発表する力が身につくようになる。		
授業計画（後期）	第1回	・オリエンテーション ・授業内容や授業の進め方について話を聞く	
	第2回	・卒業研究とは何かを知る。	
	第3回	・各自のテーマを明確にする ・データー作成の仕方を覚える	
	第4回	・先行研究について検索や収集する ・自分のテーマに沿った参考文献を探る。	
	第5回	・テーマに基づいて各自で研究をする ・研究の背景と目的について考えをまとめる	
	第6回	・テーマに基づいて各自で研究をする ・研究でどのようなことをするのか、研究の意義について書く。	
	第7回	・テーマに基づいて各自で研究をする ・結果についてまとめる。	
	第8回	・テーマに基づいて各自で研究をする ・考察についてまとめる。	
	第9回	・テーマに基づいて各自で研究をする ・今後の課題についてまとめる。	
	第10回	・発表の仕方を学ぶ ・パワーポイントを作る。	
	第11回	・発表の仕方を学ぶ ・パワーポイントを完成させる。	
	第12回	・発表の仕方を学ぶ。 ・発表のマナーや態度を知り、他者に聞いてもらうという意識をもつ。	
	第13回	・研究発表をする ・他者からの質問に答え、内容を明らかにしていく。	
	第14回	・研究発表をする ・他者の発表を聞き、質問をする。	
	第15回	・まとめ	
使用図書	・テキスト無し。 ※オリジナルプリント配布。		
評価方法	・研究に対する姿勢 50% ・研究内容及び発表態度 50%		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・人として常に疑問を持つことや考えることの大切さを学びます。「百聞は一見に如かず」自分の目で見て調べてみる習慣を持ちましょう。 ・各自の研究計画は早めに立て、自分の課題やテーマはあらかじめ整理しておきましょう。		

科目名	・卒業研究（劇遊び等）		
科目担当者	・学科教員 富山 幹子、竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・2単位 30時間		
配当学年・時期	・2年次 前期		
授業の目的・ねらい	・劇遊びを通して保育指導の基礎力を身につける。 ・学生同士の人間力や協働性を高める。 ・人前で発表する力を養う。		
到達目標	・人前で発表する自信と力が身につくようになる。 ・道具作りや劇発表を通して人間力や表現力が身につく。		
授業計画（前期）	第1回	・オリエンテーション ・授業の内容や進め方について話を聞く。	
	第2回	・保育園で発表する内容について話し合いをする。	
	第3回	・題材や役割について話し合う。 ・グループや担当者を決める。	
	第4回	・劇発表について、シナリオを作成する。	
	第5回	・シナリオについてみんなで確認をし完成する。 ・完成したシナリオを発表する。	
	第6回	・各担当に分かれて大道具や小道具、衣装を作る。 ・大道具、小道具に必要なものを話し合う。	
	第7回	・各担当に分かれて大道具や小道具、衣装を作る。 ・道具作りの素材を準備する。	
	第8回	・各担当に分かれて大道具や小道具、衣装を作る。 ・衣装や小道具の具材を立体的に作る	
	第9回	・各担当に分かれて大道具や小道具、衣装を作る。 ・絵を描く場合には用紙がおれないように裏打ちをする。	
	第10回	・劇中に行う手遊びやリズムなどについて担当者から学ぶ。 ・曲のイメージを掴み、全員が踊れるように練習する。	
	第11回	・大道具や小道具、衣装の進み具合をみんなで確認する ・必要に応じて補正する。	
	第12回	・それぞれの配役のセリフをしっかり覚える。 ・シナリオを見ながら自分のパートを声を出して言う。	
	第13回	・それぞれの配役のセリフをしっかりと暗記する。 ・劇のリハーサルを行うことの大切さを知る。	
	第14回	・劇発表の仕方について諸注意を聞き、クラスで発表会を行う。 ・劇の振り返りをする。	
	第15回	・劇発表を保育園で行う。 ・発表後の振り返りをする。	
使用図書	・テキスト無し。 ※オリジナルプリント配布。		
評価方法	・研究に対する姿勢 50% ・研究内容及び発表態度 50%		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・保育園児の前で発表するので、どの年齢にも通用する内容を考えたり、園児が参加できる内容を考えることが盛り上がりにつながると思います。 ・子どもたちの笑顔をイメージして楽しいものにしましょう。		

科目名	・保育実習指導Ⅰ		
科目担当者	・学科教員 富山幹子,竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2単位 30時間		
配当学年・時期	1年次 後期		
授業の目的・ねらい	・子どもの最善の利益を追求するための保育士としての能力を培う ・保育所の機能や役割について理解する ・保育所実習に必要な知識・技術を学ぶ		
到達目標	・保育所の生活に参加し、子ども理解や保育技術を学び保育士の役割が理解できる ・保育所実習の内容を理解でき、知識、技能が身につく ・指導計画の意味が理解でき、指導案の立案できる		
授業計画（後期）	第1回	・オリエンテーション ・実習の種類と時期について共通理解をする ・保育所のボランティア実習、体験実習の意義と目的について学ぶ	
	第2回	・実習に必要な書類について内容を理解する ・夏のボランティア実習について理解する	
	第3回	・夏のボランティア実習に必要な書類の書き方を理解する ・保育の観察記録の取り方について学ぶ	
	第4回	・夏のボランティアを終え、自分の学びをまとめる ・ボランティアの学びを発表し意見交換する	
	第5回	・体験実習について内容を理解する ・簡単な手遊びをみんなの前で実践する	
	第6回	・体験実習の記録の書き方について学ぶ ・保育の流れ、予想される子どもの活動、実習生の気づきについて書き方を学ぶ	
	第7回	・体験実習を終え、自分の学びをまとめる ・体験実習の学びを発表し、意見交換をする	
	第8回	・保育施設について理解する ・保育所実習の意義と目的について理解する	
	第9回	・保育所実習に必要な諸書類の書き方について理解する。 ・個人票、出勤簿、誓約書などの関係書類の記入をする	
	第10回	・実習の抱負について自分の考えをまとめ、下書きを書き指導を受ける ・実習の抱負について清書する	
	第11回	・事前訪問の目的と内容について理解する ・保育所の1日の流れや生活について学ぶ	
	第12回	・保育所職員の仕事内容や役割分担を理解しするとともに保育所の組織について学ぶ ・子どもの年齢発達を学ぶ	
	第13回	・実習日誌や観察記録、保育環境の構成について指導を受ける ・子どもの年齢発達を学ぶ	
	第14回	・指導計画案の立案の仕方について学ぶ ・年齢に適した指導案を作成する	
	第15回	・保育所実習直前指導を受ける ・保育現場で見られる子どもの活動について事例を挙げて学ぶ	
使用図書	・保育指導案大百科事典 開 仁志 一芸社 2012 ・実習日誌の書き方 開 仁志 一芸社 2012		
評価方法	・授業に対する姿勢 30% 提出物 20% 実習園の評価 50%		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・実習についての学びは2年生まで続き、その都度大切なことを実践するので欠席はしないこと ・指導計画の立案のために書き方について学ぶため予習をすること ・手遊びや絵本など子どもと遊ぶために必要な題材を準備しておく		

科目名	・保育実習指導Ⅱ		
科目担当者	・学科教員 富山幹子,竹川亜樹那	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	・2単位 30時間		
配当学年・時期	・2年次 前期		
授業の目的・ねらい	・実習を通して子ども理解や保育理解をし、自己課題を明確にする ・理論と実践の結びつきを経験し幼稚園教育の概要を理解する ・子どもの豊かな育ちを保障するための知識や養護技術を身につける		
到達目標	・保育の多様なニーズや内容を理解し、保育現場に必要な知識技能を身につける ・保育者としての教養と人格形成の課題を発見できる ・保育所以外の児童福祉施設の生活に参加し子ども理解を深め、施設の機能と保育士の役割が理解できる		
授業計画（前期）	第1回	・オリエンテーション ・授業の内容把握をするとともに進み方について知る	
	第2回	・実習の種類と時期について共通理解をする ・幼稚園実習の意義と目的について学ぶ	
	第3回	・保育者としてふさわしいマナーを学ぶ ・幼稚園の1日の流れを理解する（DVD視聴）	
	第4回	・幼稚園の子どもの生活の仕方や教師の動きについて学ぶ ・子どもや保育などの読み取りをする	
	第5回	・幼稚園実習に必要な書類について理解し、書き方の学びをする ・幼稚園と保育園の記録の書き方の違いを学ぶ	
	第6回	・観察実習における記録の書き方を学ぶ ・実習に臨む心構えと個人の課題を明確にする	
	第7回	・子ども理解に基づく指導計画案の立案の仕方について学ぶ ・年齢に適した指導案を作成する	
	第8回	・子ども理解に基づく指導計画案の立案の仕方について学ぶ ・年齢に適した指導案を作成する	
	第9回	・幼稚園実習の振り返り、お礼状を書く ・幼稚園実習の振り返り、自分の学びをまとめる	
	第10回	・幼稚園実習の振り返りをグループで話し合う ・幼稚園実習でのグループまとめを発表し意見交換する	
	第11回	・施設実習の意義と目的について学ぶ ・実習施設の内容について理解する（乳児院）	
	第12回	・実習施設の内容について理解する（児童養護施設、障がい児・者施設） ・核施設の学びを基に、各施設の概要をまとめる。	
	第13回	・施設実習に必要な書類について理解し、書き方の学びをする ・実習に臨む心構えと個人の課題を明確にする	
	第14回	・施設実習の計画書の書き方について学ぶ ・実習先での計画書を作成する。	
	第15回	・施設実習直前指導を受ける ・施設実習での記録の書き方を学ぶ。	
使用図書	・保育指導案大百科事典 開 仁志 一芸社 2012 ・実習日誌の書き方 開 仁志 一芸社 2012 ・保育士を目指す人の福祉施設実習 愛知県保育実習連絡協議会（株）みらい		
評価方法	・授業に対する姿勢 30% 提出物 20% 実習園の評価 50%		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・実習授業は学ぶことが1回1回違うので欠席はしないようにしましょう。 ・指導計画書の立案のために書き方について学ぶため予習をしておくことをお勧めします。 ・実習先の理論や方針についてしっかりと把握しておくようにしましょう。		

科目名	レクリエーション概論		
科目担当者	村田 靖子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 前期		
授業の目的・ねらい	・レクリエーションの意味を理解し、人と関わることの楽しさを知る。 ・レクリエーションに親しみ、理解を深める。		
到達目標	・レクリエーションの三原則を理解でき、人と関わることの楽しさがわかる。		
授業計画	第 1 回	・レクリエーションとは何かを学ぶ ・交流ゲームを楽しむ。	
	第 2 回	・レクリエーションの基本的概念について理解する	
	第 3 回	・レクリエーションの基本的な考え方と心に健康について理解する	
	第 4 回	・レクリエーション支援者の役割とは何か学ぶ	
	第 5 回	・福祉レクリエーションとは何かを知る	
	第 6 回	・行事とは何か～年間計画を考える	
	第 7 回	・コミュニケーションの大切さを知る	
	第 8 回	・「楽しい」の定義	
	第 9 回	・レクリエーション企画の立て方 ・企画書の書き方を学ぶ	
	第 1 0 回	・社会参加を通した心の元気づくり	
	第 1 1 回	・アセスメントの考え方・捉え方を学ぶ	
	第 1 2 回	・アセスメントのとレクリエーション支援計画と評価（1）	
	第 1 3 回	・アセスメントのとレクリエーション支援計画と評価（2）	
	第 1 4 回	・レクリエーション支援者としての7原則	
	第 1 5 回	・ホスピタリティについて	
	第 1 6 回	科目試験	
使用図書	・楽しさを通した心の元気づくり		
評価方法	・筆記試験（80％） ・平常点（20％）		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・演習授業を行うこともあるため、全講義出席と積極的な参加が必要となります。 ・個人的な分野だけでなく、グループセッションも行うので自分の考えや意見を持って参加しましょう。		

科目名	レクリエーション活動援助法		
科目担当者	村田 靖子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2 単位・30時間		
配当学年・時期	1 年次 前期		
授業の目的・ねらい	・あそびの中のホスピタリティを理解し、実践する		
到達目標	・自らレクリエーションを楽しみながらも、観察眼を持つ		
授業計画	第 1 回	・季節行事を考える	
	第 2 回	・季節行事を考える「伝える」ということ～話す力、聞く力のトレーニング	
	第 3 回	・レクリエーションダンスをする	
	第 4 回	・レクリエーションゲームの分類を知る	
	第 5 回	心の元気と地域のきずな	
	第 6 回	・自主的、主体的に楽しむ力を育む理論	
	第 7 回	・アイスブレイキングの必要性を学ぶ	
	第 8 回	・ホスピタリティ～コミュニケーションの大切さを学ぶ	
	第 9 回	・レクリエーション援助とアセスメントの重要性について	
	第 1 0 回	・レクリエーション援助のための実施前・実施中における留意点について	
	第 1 1 回	・レクリエーションプログラムの基本的考え方と展開の方法	
	第 1 2 回	・レクリエーション事業の評価の方法	
	第 1 3 回	・グループワーク・・・レクリエーションプログラムを考える	
	第 1 4 回	・グループワーク・・・実技発表と評価について	
	第 15回	レクリエーションの治療的意味合いとは	
	第 16回	科目試験	
使用図書	・楽しさを通じた心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人 日本レクリエーション協会編		
評価方法	・筆記試験（80％） ・平常点（20％）		
フィードバック	・講義時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・演習授業を行うこともあるため、全講義出席と積極的な参加が必要となります。 ・個人的な分野だけでなく、グループセッションも行うので自分の考えや意見を持って参加しましょう。		

科目名	保育・教職実践演習		
科目担当者	富山 幹子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	1単位・15時間		
配当学年・時期	2年次 前期		
授業の目的・ねらい	・今までに学んだ資質能力を確認し自己の課題の自覚を持つ。 ・教職生活を円滑にできるように保育実技を通して実践的指導力を身につける。		
到達目標	・保育カンファレンスや様々な場面でのリスクマネジメントが身につくようになる。 ・授業で学んだ知識と教育実習で学んだ実践知識を統合して確かな実践指導力が見につくようになる。		
授業計画	第1回	・授業ガイダンス ・教師という職業について	
	第2回	・学級経営について ・学級経営における臨床場面での教師の対応Ⅰ（ロールプレイング）	
	第3回	・特別支援教育の基礎について ・保育場面での対応 課題のある幼児の事例研究	
	第4回	・特別支援教育と教師・保護者について ・教育課題への教師としてのアプローチについて討議	
	第5回	・保育における集団の編成について ・保育計画と模擬保育の実践	
	第6回	・幼児教育の将来的展望 ・統合保育・異年齢児保育に関わる課題と展望	
	第7回	・幼稚園・保育園・小学校との連携 ・「幼保小連携」こどもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方	
	第8回	・まとめと今後の課題	
	第9回	科目試験	
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
	第 回		
第 回			
使用図書	・「保育・教職実践演習」テキスト：豊岡短期大学 ・「幼稚園教育要領開設」最新版（フレーベル館） ・領域「人間関係」田宮縁著 萌文書林 ・「保育所保育指針開設」最新版（フレーベル観） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領開設」最新版（フレーベル館）		
評価方法	・授業参加姿勢 ・レポート課題結果 ・科目試験評価結果（50％）とスクーリング50％の平均		
フィードバック	・講義じにリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	・遅刻、欠席をしないように努力しましょう。 ・課題の提出期限を厳守しましょう。 ・意欲的に授業に取り組みましょう。		